



## 注目すべき感染症

### マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ( *Mycoplasma pneumoniae* )を病原体とする呼吸器感染症である。感染経路としては、飛沫感染による経気道感染や、接触感染によって伝播すると言われている。感染には濃厚接触が必要と考えられており、保育施設、幼稚園、学校などの閉鎖施設内や家庭などでの感染伝播はみられるが、短時間の曝露による感染拡大の可能性はそれほど高くはない。潜伏期間は2~3週間とインフルエンザやRSウイルス感染症等の他の小児を中心に大きく流行する呼吸器疾患と比べて長く、初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などである。本症の特徴的な症状である咳は、初発症状発現後3~5日より始まることが多く、乾性の咳が経過に従って徐々に増強し、解熱後も長期にわたって(3~4週間)持続する。治療は抗菌薬投与による原因療法が基本であるが、*Mycoplasma pneumoniae* は細胞壁を持たないために、β-ラクタム系抗菌薬には感受性はない。これまでは蛋白合成阻害薬であるマクロライド系( エリスロマイシン、クラリスロマイシン等 )が第1選択薬とされてきたが、以前よりマクロライド系抗菌薬に耐性を有する耐性株が存在することが明らかとなっており( IASR速報 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3814.html>、IASR特集:マイコプラズマ肺炎 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/28/324/tpc324-j.html> )、近年その耐性株の割合が増加しつつあるとの指摘もあり、注意が必要である。

診断には特異的IgM抗体迅速検出キットが開発され、臨床現場において活用されてきているが、幼児、学童の初回感染例では発病1週間以内では陰性を示すことが多く、また単一血清で高い抗体価であっても感染の既往を示している可能性を否定できない。最近、PCR法やLAMP法による遺伝子検出が次第に多くの検査機関で実施されるようになってきている。

マイコプラズマ肺炎は、かつては、他の病原体によるものも含まれる「異型肺炎」として発生動向調査が実施されていたが、1999年4月の感染症法改正により、現在の病原体診断に基づく調査となった。現在、マイコプラズマ肺炎のサーベイランスは全国約500カ所の基幹定点医療機関(2次医療圏域毎に1カ所以上設定された、300人以上収容する施設を有する病院)からの報告に基づいている。

2011年のマイコプラズマ肺炎の基幹定点からの定点当たり報告数は、第25週以降は1999年の調査開始以降の同時期と比較して最も多い状態が継続している。特に第40週以降は定点当たり報告数が1.00を超えた状態が継続している。第43週の定点当たり報告数は前週( 定点当たり報告数1.13 )より増加し、1.20( 報告数552 )であった( 図1 )。都道府県別では沖縄県( 3.43 )、岐阜県( 3.20 )、岡山県( 3.20 )、大阪府( 3.00 )、埼玉県( 2.89 )、青森県( 2.50 )、福島県( 2.43 )、宮城県( 2.42 )の順となっており、23都道府県で前週より報告数の増加が認められた( 図2 )。

図1. マイコプラズマ肺炎の年別・週別発生状況( 2001 ~ 2011年第43週 )

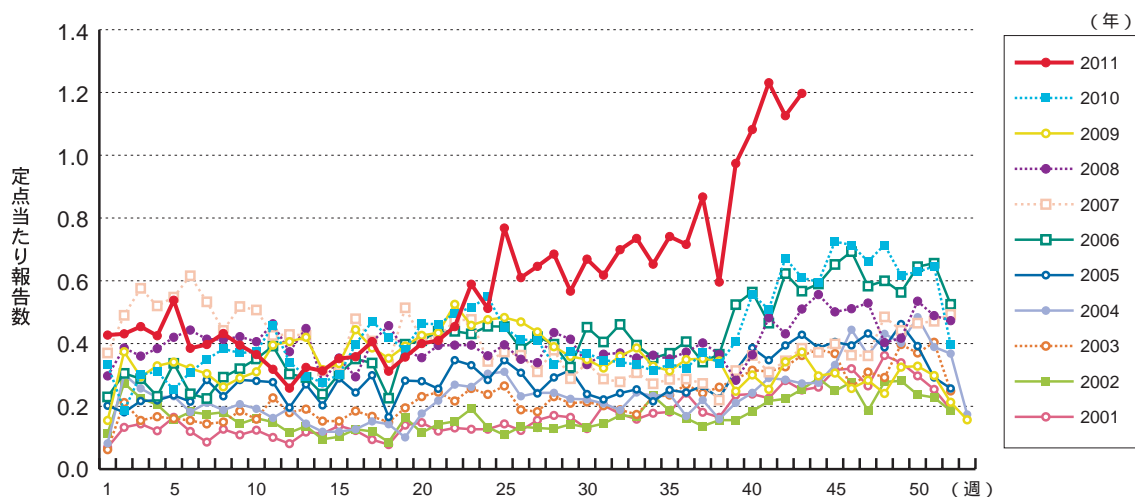
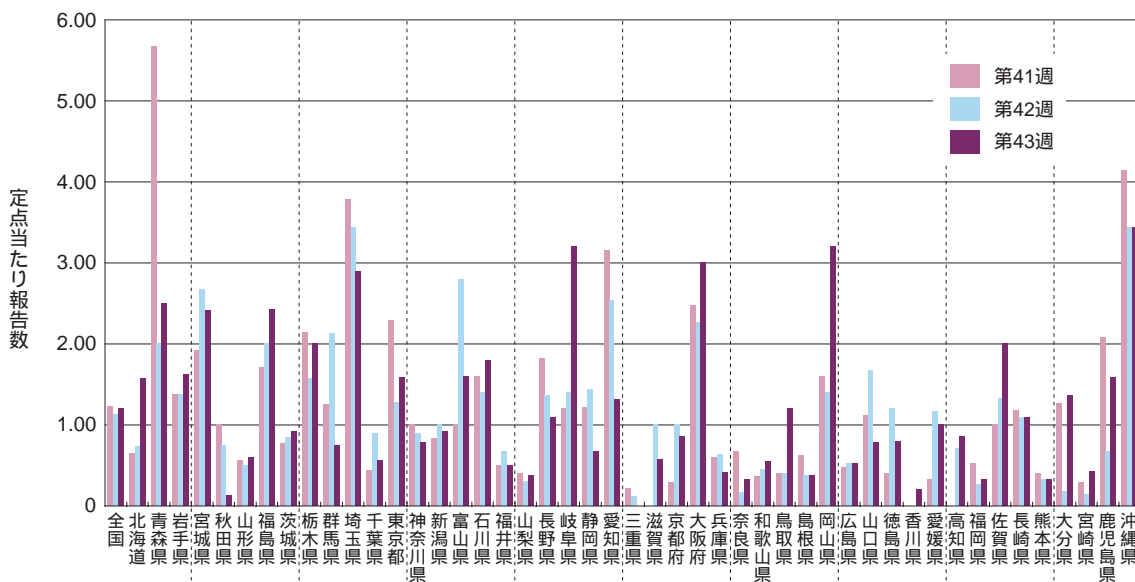
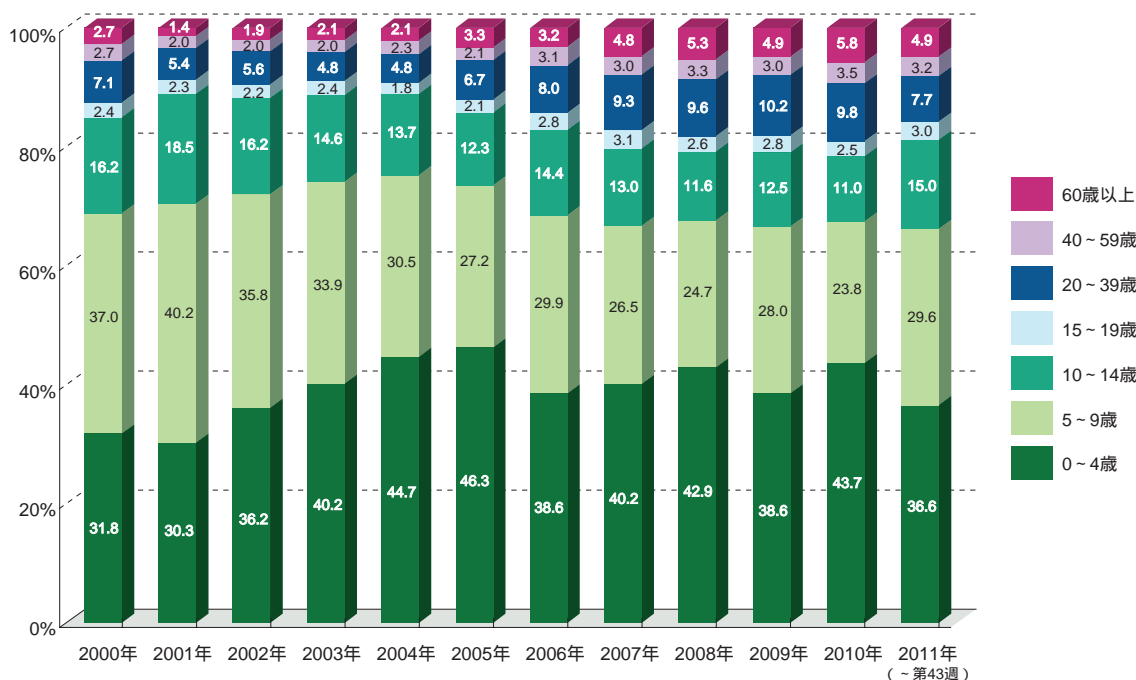


図2. マイコプラズマ肺炎の都道府県別定点当たり報告数の推移( 2011年第41 ~ 43週 )



2011年第1～43週の定点当たり累積報告数は25.03( 累積報告数11,539 )であり、既に2000年以降の年間の最多報告数( 2010年、定点当たり累積報告数22.50 )を上回っている。年齢群別では0～4歳36.6%、5～9歳29.6%、10～14歳15.0%、20～39歳7.7%、60歳以上4.9%の順となっている。2007年以降は成人の報告割合がやや増加して全報告数の20%近くを占めるようになってきているが、一方で14歳以下が80%前後を占めており、マイコプラズマ肺炎の報告の中心が小児であることには変わりはない( 図3 )。

図3. マイコプラズマ肺炎の年別・年齢群別割合( 2000～2011年第43週 )



2011年のマイコプラズマ肺炎の週毎の報告数は、1999年4月の発生動向調査開始以来の多い水準を保ったまま例年報告数が若干増加傾向となる時期を迎えつつある。今後ともマイコプラズマ肺炎の報告数の推移については慎重に経過観察していくべきであると同時に、これまで治療の第一選択薬とされていたマクロライド系抗菌薬に対する耐性株に関する情報にも注意していく必要がある。